

平成26年度  
インターネットサービス基本計画

日本放送協会

平成26年2月

# 目次

---

はじめに	-----	3
サービス実施の基本方針	-----	4
各サービスの編集方針		
第1部 放送法第20条第2項第2号に		
関する業務の基準に基づくサービス	-----	6
1. 安全・安心情報の拡充	-----	8
2. 正確で迅速なニュース・情報の提供		
地域からの情報発信の強化	-----	9
3. 心と暮らしを豊かにする		
NHK ならではの質の高いコンテンツの提供	----	12
4. “人にやさしい” サービスの充実	-----	13
第2部 ハイブリッドキャストサービス	-----	15
第3部 緊急情報や外国人向け情報など、		
その他のサービス	-----	18

# はじめに

---

この基本計画は、NHKが受信料を財源として実施する、平成26年度のインターネットサービスの内容を示すものです。

# サービス実施の基本方針

---

平成26年度は「豊かで安心、たしかな未来へ」を掲げた3か年のNHK経営計画の最終年となります。インターネットサービスにおいてもNHKは正確・迅速で公平・公正な情報や、人々の心を豊かにする魅力にあふれたコンテンツを提供します。

いま日本は、少子高齢化への対応、複雑化する国際関係など多くの課題を抱えています。一方で、企業業績や各種経済指標が堅調に推移し、2020年（平成32年）のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることが決定するなど日本国内に明るさも見えています。

通信・インターネットの世界では、インターネットを利用した選挙活動が解禁され、有権者の政治参加を促進することが期待されています。スマートフォンでインターネットを見る習慣が定着する一方で、パソコンや従来型の携帯電話からのアクセス数が減少しています。ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）も人々のコミュニケーションに欠かせないツールになりましたが、青少年を中心にトラブルも目立つようになってきました。

こうした中で、NHKは放送と通信の連携を目指し、「ハイブリッドキャスト」サービスをスタートしました。26年度はサービスを拡大し、「情報」「教育」「スポーツ」「エンターテインメント」などの分野でコンテンツの開発を行い、スマートフォンやタブレット端末との連携など新たな視聴体験の提供にも取り組みます。

インターネットサービスの提供にあたっては、災害など緊急時の情報提供はもちろん、世の中の最新の動きや、人々の暮らし、文化の向上、教育・福祉、健康などに役立つ情報を提供します。

また、スマートフォンに最適化したコンテンツや動画ページをいっそう拡大し、モバイル端末での視聴が進む環境の変化に対応していきます。情報を一人でも多くの視聴者に送り届けられるよう、SNSも活用し、視聴者がNHKのコンテンツにいっそう接触しやすくします。

さらに、放送局が行うインターネットサービスとして、テレビ・ラジオの視聴につながる回路であることを強く意識し、放送と通信を相互補完的に機能させることで、NHKの発信するさまざまな情報に接していただけるよう努めます。

インターネットサービスを実施するにあたり、NHKは以下のルールにのっとり行います。

#### 1. 法令および各種規定の順守

サービスの実施にあたっては、法令を順守するとともに、「国内番組基準」、「国際番組基準」、「NHK放送ガイドライン」などの各種規定に準拠します。

#### 2. 放送番組との関連性の明示

放送法の第20条第2項第2号に「協会が放送した放送番組及びその編集上必要な資料を電気通信回線を通じて一般の利用に供すること」として記載されている業務として提供するインターネットコンテンツにおいては、当該コンテンツが根拠とする放送番組を明示します。

#### 3. サービスの確保と向上のための不断の取り組み

インターネットの利用環境が絶え間なく変化し、それに伴って変化しつづける利用者の要望に答え、安定したサービスをいつでも提供できるように、設備など必要な基盤を整備していきます。特に、首都圏直下型地震や首都圏大規模停電などが起きた場合でも、最低限のサービス提供は継続できるようなバックアップ機能整備を進めます。サービスの技術的な品質は国民の大部分が利用可能であることを目安とします。

#### 4. コスト管理の徹底と実施経費の公表

インターネットサービスの実施にあたっては、絶えず業務の改善に努め、経費を適正に把握し、コスト管理を徹底します。実施経費については、年度終了後に公表し、透明性の確保に努めます。

#### 5. インターネットサービス提供の基本

インターネットコンテンツは以下のサービスで提供することを基本とします。

- パソコン、スマートフォン、タブレット端末向けサイト「NHKオンライン」
- 携帯電話向けサイト「NHKケータイ」
- 地上・BSデジタル放送、ワンセグ放送のデータ放送を入り口としたインターネット接続サービス
- 放送と通信が連携した「NHKハイブリッドキャスト」サービス

# 第1部

## 放送法第20条第2項第2号の 業務の基準に基づくサービス

# 重点目標と編集方針

---

26年度は、4つのサービスの重点目標を掲げます。

## 1. 安全・安心情報の拡充

暮らしの安全・安心にかかわる情報を、多様な伝送路でいつでもどこでも取得できるシステムを整備し、サービスを拡充するとともに、東日本大震災からの復興を支援する情報や、震災の教訓を伝えるコンテンツ、地域の防災情報を充実します。

## 2. 正確で迅速なニュース・情報の提供、地域からの発信の強化

地域拠点局の1週間ニュースの提供や「NEWSWEB」での地域ニュースの充実など、地域からの情報発信をさらに強化します。SNSなども活用し、より幅広い層にいち早く情報を発信していきます。また、地域発ドラマなど地域の活性化につながるコンテンツも強化するのに加え、大規模スポーツイベントを中心に多様なスポーツコンテンツも提供します。

## 3. 心と暮らしを豊かにするNHKならではの質の高いコンテンツの提供

学習履歴を活用し、放送と連動してより高い学習効果が得られる教育コンテンツのいっそうの充実に努めます。青少年の育成、文化の継承、暮らしの充実など、人々の心と暮らしを豊かにするコンテンツを提供します。利用者の登録による視聴IDサービスを活用し、よりきめ細かい健康情報も提供していきます。

## 4. “人にやさしい”サービスの充実

インターネットの双方向性を生かし、視聴者からの意見を積極的に取り入れた幅広い福祉情報を提供します。在日外国人にも分かりやすい“やさしい日本語”で伝えるニュースや手話ニュースの動画提供など、最新の技術を使った“人にやさしい”サービスにも力を入れます。

## 【編集方針】

### 1. 安全・安心情報の拡充

○暮らしの安全・安心情報を、多様な伝送路と端末で提供し、いつでもどこからでも取得できるようにし、国民の公共放送への信頼に応えます

放送したニュース原稿の2次利用による地震、気象災害、事件・事故等の災害情報を、データ放送、PC、モバイル端末に表示する「災害情報入力システム」のいっそうの改良を行います。

自治体が発表する避難指示、避難勧告、開設避難所情報などのデータを自動的に収集・伝達する公共的なシステム「公共情報コモンズ」に接続する放送局を20局前後に拡大して迅速な情報提供を進めるなど、防災情報のいっそうの充実に努めます。

○震災の記憶をアーカイブ化して伝えるコンテンツの制作、復興に向けた取り組み等を紹介・支援するコンテンツを強化します

(主なコンテンツ、サービス)

「明日へ 一支援あおう」

被災地復興を願い、支援を行うため、NHKの震災関連番組やイベント情報、役立つ防災情報を掲載するサイトを充実させていきます。

「こころフォト～忘れない～」

失われた命の大切さと被災地の今を伝えるために、亡くなった方の写真とメッセージを募集し、番組とホームページで紹介します。

○地域の防災につながる情報をきめ細かく伝えます

(主なコンテンツ、サービス)

「NHKそなえる防災」

防災・減災に関する専門家たちのコラムや視聴者の疑問・質問に答えるQ&A、動画で学ぶコンテンツ、住んでいる街の危険箇所や防災に役立つ場所を選んでオリジナルの防災マップを作るコンテンツなどで日頃の防災に役立つ知識や情報を伝えます。

「火山と生きる・火山を学ぶ」(札幌放送局)

札幌管区气象台・北海道教育委員会と協力して、火山防災につながるコンテンツを提供します。



「京都府の河川水位防災情報」（京都放送局）

京都府や自治体から発信される河川水位・河川カメラ情報や避難情報を、データ放送とインターネットで提供し、防災・減災につなげます。新たにスマートフォンに最適化したページも提供し、いつでもどこでも情報を見られるようにします。

「くらしと安全」（広島放送局）

「地震津波」「台風」「大雨」「土砂災害」など災害の種類ごとに普段からの注意点についてイラストでわかりやすく伝えます。

## 2. 正確で迅速なニュース・情報の提供、地域からの情報発信の強化

### ○ニュース・情報の提供をいっそう充実させます

(主なコンテンツ、サービス)

「NHK NEWS WEB」

国民の関心の高い情報をインターネットでも速報するとともに、アクセスランキングなども紹介し、放送番組の「NEWS WEB」とも連携します。SNSも活用し、さまざまな手段で情報を届けます。また、地方局のニュースもピックアップして見やすく届けます。

「各地のニュース」

各放送局のニュース動画の一部をインターネットでも提供し、地域の今を全国に向けて発信し、地域の活性化につなげていきます。札幌、仙台、首都圏、名古屋、大阪、広島、福岡局では過去1週間のニュースを掲載して、視聴者の利便性を高めます。

「キャッチ！世界の視点」「国際報道2014」

BS1などで放送した、世界各国のニュース、世界情勢についての特集レポートについて、詳細な内容を地域別、専門別、放送日別で閲覧できるように掲載し、世界の最新情報をインターネットでも提供していきます。英語ニュースでよく使われるキーワードも解説し、“生きた英語”の学習にも役立てていただきます。

### ○地域の活性化につながるコンテンツをいっそう強化します

(主なコンテンツ、サービス)

「地域発ドラマ」(各放送局)

各放送局が制作する地域発ドラマと連動し、ロケ風景や撮影に協力していただいた地元の方々の紹介など、ドラマで描かれる地域の素晴らしさ、人々の温かさを全国の視聴者に向けてアピールしていきます。

「しあわせニュース」

全国54の放送局が放送したニュースの中から”しあわせ”というキーワードで共通する沢山笑えて、ちょっと泣けて、深く感動できるニュースを地図形式でわかりやすく伝えます。

「軍師官兵衛ご当地サイト」(神戸放送局、福岡・大分放送局)  
大河ドラマ「軍師官兵衛」と連動し、全国や各地域で放送したドラマの  
関連番組、関連ニュースや官兵衛ゆかりの史跡情報、イベント情報、マ  
ンガによる解説など多彩なコンテンツで、視聴者の関心に応えるとともに  
地域の魅力を全国にアピールします。

「脱！短命」(青森放送局)  
県民の平均寿命が全国でも最も短い水準にある青森県で、肥満防止など  
“短命県”を脱出するための現状と取り組みについてのニュースリポー  
トをインターネットでも提供し、県民の意識向上につなげます。青森局  
のオリジナル体操を作り、放送とインターネットで広く周知し、楽しみ  
ながら健康改善につなげます。

「まるごとふじさん」「富士山ポータル」(甲府放送局、静岡放送局)  
世界文化遺産に登録された富士山について、視聴者コンクール写真入選  
作の紹介や動画や音で楽しめるコンテンツ、富士山に関するニュースな  
ど多角的に富士山の魅力について伝えます。

「遍路1200キャンペーン」(松山放送局)  
平成26年は、四国八十八か所霊場開創から1200年といわれています。  
四国で長く人を引き付けてきた「遍路」について、地域番組で取り  
上げた情報を中心にホームページでも紹介し、遍路文化や八十八か所霊  
場についての情報を発信します。

○各種スポーツイベントに関しても、データ放送と連動しながらより豊かなコンテ  
ンツを提供します

(主なコンテンツ、サービス)

「スポーツオンライン」

プロ野球や日本人選手の活躍で注目度が高まっている MLB、サッカー  
日本代表など各スポーツの放送予定と競技結果を、データ放送と連動し  
て速やかに伝えます。

「2014 FIFAワールドカップ ブラジル大会」ほか

「2014 NHK杯フィギュア」

「ロードレースオンライン」

### 3. 心と暮らしを豊かにする NHK ならではの質の高いコンテンツの提供

〇番組と連動し、放送後などに閲覧すると高い学習効果が得られる教育コンテンツや青少年向けコンテンツのいっそうの充実に努め、視聴者の「知りたい」「学びたい」という意欲・ニーズに応えます

(主なコンテンツ、サービス)

「NHK 語学番組」

番組で紹介したスキットをテキストや音声、動画で紹介し、テレビ、ラジオ番組とあわせて見ることで、基礎から会話までの語学学習を手助けします。さらに、視聴 ID サービスを活用し、番組視聴履歴が分かるようにすることで、継続的、体系的学習の手助けにもなるようコンテンツを工夫します。

「NHK for School」

新たに動画ポータルページを作成し、学習に役立つ番組の動画クリップをランキング形式やテーマ別に整理し、より視聴しやすく、教育現場で活用しやすいページを目指します。従来通り学年、教科単元別に動画やクイズなどによる豊富な学習コンテンツを教師、児童・生徒向けに提供します。

「いじめ、なにソレ?というほうへ。」

Eテレで放送中の番組「いじめをノックアウト」と連動し、いじめを減らすために個人やクラス単位で“自分がやろうと決めたこと”を宣言する「100 万人の行動宣言」をホームページで募集し、行動宣言を、番組で紹介するとともにホームページ上でも紹介することで、いじめゼロに向けて取り組んでいきます。

〇文化・芸術の継承・発展、暮らしの充実、教養、健康など、人々の生活と心を豊かにするコンテンツを充実します

(主なコンテンツ、サービス)

「戦後史証言アーカイブス」

戦後日本の歩みを人々の証言を通じて描く番組「日本人は何をめざしてきたのか」と連動し、収集した証言を、未放送の部分も含めて、インターネットでも視聴できるようにし、戦後の日本を築いた人々の貴重な体験を、日本人共通の資産として未来に伝えます。

「NHKデジタルアーカイブス」

「NHK映像マップ みちしる」「クリエイティブライブラリー」「戦争証言ライブラリー」などのサイトで提供しているデジタルアーカイブスコンテンツを横断的に利用できるようにし、社会教育や学校教育で活用していただくとともにNHK オンデマンドへの誘導を図ります。

「NHK健康ホームページ」

「きょうの健康」などで放送した健康情報をデータベース化し、視聴IDサービスを活用し、病名や症状から、家庭で注意すべき点や治療法などを調べることができます。スマートフォンにも対応し、いつでも手軽に見られるようにします。

「くらしのパートナー」

Eテレで放送した趣味実用番組と連動し、レシピなど放送内容の一部を紹介するとともに、視聴者のみなさんの作品を募集・公開し、番組をさらに楽しめるコンテンツを提供します。

## 4. “人にやさしい” サービスの充実

○双方向機能を生かして視聴者とともに作り上げる福祉情報を提供し、社会の絆作りを支えます

(主なコンテンツ、サービス)

「ハートネット」

「うつ」「発達障害」「自殺」など、テーマ別に整理した番組関連の福祉情報を掲載することで情報の発信・共有を行い、人と人をつないでいきます。また、SNSやホームページの掲示板を利用し、視聴者からご意見や情報を募集し番組制作に役立てていきます。

○最新の技術を応用して“人にやさしい”サービスを拡充します

(主なコンテンツ、サービス)

「NHK手話ニュース」

Eテレで放送した1週間分の手話ニュース、および「こども手話ウィークリー」について、動画でも提供し、繰り返し見られるようにすることで、聴覚障害者の方の利便性を高めます。

「NEWS WEB EASY」

ニュースを平易な文章に変換・提供するシステムを通じて、子どもや日本語に慣れていない外国人にもわかりやすく提供します。

### [コンテンツ・サービスレベル]

NHKのインターネットサービスで提供するコンテンツやサービスのレベルは、利用者の大部分が使用している環境で、円滑に利用できる水準を確保します。

## 第2部

# ハイブリッドキャストサービス

# 編集方針

---

放送と通信が連携した新しいサービス「ハイブリッドキャスト」については、26年度は総合テレビに加え、教育テレビジョン（Eテレ）やBS1、BSプレミアムにもサービスを広げます。

24時間いつでも楽しめるコンテンツの充実と、「情報」「教育」「スポーツ」「エンターテインメント」などの分野でコンテンツの開発を行い、ハイブリッドキャストならではの番組連動サービスでこれまでにない新たな視聴体験を提供します。

26年度は、既存のデータ放送コンテンツを活用した、放送法第20条第2項第2号によるサービスのほか、同項8号の「放送及びその受信の進歩発達に特に必要な業務」として総務大臣の認可を受けたサービスを提供します。



## ＜20条2項2号サービス＞

既存のデータ放送コンテンツを活用し、「スクロールニュース」「気象情報」「スポーツ」「ビジネス」「番組表」「旬美暦」など暮らしに役立つコンテンツを提供していきます。既放送番組のコンテンツを活用した「おはなしのくに」や「きょうの料理」のレシピなどのコンテンツも提供します。

## ＜20条2項8号サービス＞

1. 放送中の番組の時差再生可能な映像を提供
2. 放送中の番組の進行に合わせて複数カメラからの中継映像を同時提供
3. 放送番組及びその編集上必要な資料による動画クリップを当該番組の放送中に提供

上記3つの項目については、各種番組で実施を検討します。

4. 視聴者の番組参加を目的としたコンテンツを提供

「あさいち」では、ハイブリッドキャストならではの演出で実施するコーナーを開発します。

5. 文字、図形、データなどによる番組に関連したコンテンツを提供

「しごとの基礎英語」で、番組中のキーフレーズを即座にスマートフォンに保存したり、放送と放送の間に予習や復習ができるコンテンツなどを提供します。

「将棋トーナメント」では、スマートフォンやタブレット端末上の将棋盤に棋譜を表示し、対局をより深く楽しんでいただきます。

6. 放送中の番組を契機としたリコメンド機能等を利用して、既放送番組の動画クリップ等を提供

放送中の番組に関連したアーカイブスの動画を視聴できるサービスを提供します。

## 第3部

緊急情報や外国人向け情報など、  
その他のサービス

# 編集方針

---

番組制作、番組の周知・宣伝、経営広報、営業活動、職員採用、調査研究などの業務に関連して行うインターネットサービスについては、それぞれの業務を効果的に実施するなどの目的に合ったコンテンツを制作・提供します。

## ＜番組制作やイベント実施業務＞

番組制作やイベントでは、インターネットを活用して視聴者が参加する双方向の取り組みをいっそう進めます。視聴IDサービスなど視聴者とのつながりを深める仕組みもさらに強化していきます。

## ＜番組広報・経営広報業務、営業活動業務＞

番組の周知・宣伝については、番組の放送より前に行うことを基本とし、全体として放送番組の視聴につなげることを目的とします。経営広報については、公共放送の活動を広く理解していただくことを基本とします。NHKオンデマンドサービスについては、PRを強化し利用拡大に努めます。営業活動と連動するコンテンツについては、その目的に照らして妥当な範囲・態様によってサービスを充実し、これまで以上に受信料制度への理解促進を図ります。

## ＜災害・危機管理情報その他の緊急情報の提供＞

災害・危機管理情報その他の緊急情報など、国民の生命、財産にかかわる情報については、情報発信の仕組みをいっそう強化し、積極的に実施し公共放送の使命を果たします。安否情報については、データ放送で提供するとともに、通信事業者等と共同でインターネットでも提供します。大災害時にEテレで放送するライフライン情報を、パソコン、スマートフォン、タブレット端末、携帯でも詳しく伝えるなど、きめ細かい情報をさまざまなツールで被災地域に届けます。

## ＜選挙情報の提供＞

選挙の情報については、公平中立な立場から正確な情報を迅速に提供します。

## ＜外国人向け情報の提供＞

国際放送の発信についてはさらに強化を図ります。ニュースを中心に情報性を高めるとともに、番組情報を充実させて、番組の視聴につながる取り組みを強化します。スマートフォンやタブレット端末、テレビ向けアプリの開発・改善を進め、世界中でより簡単に「NHKワールドTV」および「NHKワールド ラジオ日本」に接してもらえるようにします。

### ＜インターネットラジオの試行＞

23年度から試行を開始したインターネットラジオについては、モバイル端末でどのような聴取形態がふさわしいかなどについて、引き続き検証を行います。

### ＜放送及びその受信の進歩発達に必要な調査研究＞

放送と通信が連携した新しいサービス、ハイブリッドキャストについては、VOD（ビデオオンデマンド）サービスを視野に入れた認証基盤整備に着手するほか、多彩なスマートフォン・タブレット端末向けアプリなどを開発します。

インターネット上で人にやさしいコンテンツを提供できる技術開発としては、ニュースの原稿をわかりやすい日本語に変換するための試みや、手話をCGアニメ化する技術などにも取り組みます。

2020年の東京オリンピックを視野に入れて、世界をリードできるような日本発のインターネット技術開発にも引き続き取り組みます。

### [サービスレベル]

○ 利用者の大部分が使用している環境で、円滑に利用できる水準を確保します。